

南信州広域連合第5回広域連合会議 結果報告

日時：平成30年8月17日(金) 13:00～14:55

場所：県飯田合同庁舎3階 講堂

【出席者】14市町村長、副管理者

〔南信州地域振興局〕土屋局長

〔飯田建設事務所〕須山次長

〔飯田保健福祉事務所〕松岡所長

〔阿南学園〕三浦施設長

〔飯田市企画課〕佐々木係長

〔飯田広域消防〕大藏消防次長兼総務課長

〔飯田環境センター〕北原事務長

〔事務局〕高田事務局長・松江事務局次長・加藤事務局次長補佐兼庶務係長・櫻井広域振興係長・秋山介護保険係長・林庶務係主事

1 開 会…13:00

2 広域連合長 挨拶

お盆明けの大変ご多用の中にも関わらず、お集まりいただき誠にありがとうございます。また日頃から広域連合の取組に対しそれぞれの立場で大変なご理解をいただいていることに対し感謝申し上げます。

本日、この広域連合会議から新しく泰阜村の横前村長に加わっていただいた。これから広域連合の一員としてご活躍を期待申し上げます。

松島前村長がご勇退ということにあわせて、現在、副広域連合長が空席となっているので協議報告事項の最初に選任について諮らせていただく。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

3 横前泰阜村長 挨拶

4 協議・報告事項

(1) 副広域連合長の選任について

平谷村の小池村長が選任される。

→ 異議なし、承認

(2) 阿南学園の運営状況の報告について（資料No.2）【説明者：阿南学園】

平成29年度 事業報告について

・在籍者（定員80名）現在数62名

・利用者が安心して暮らせるよう総意工夫し、今後も取り組んで参りたい。

→ 説明内容確認、質疑なし

(3) 南信州広域連合会議第2回臨時会に付議する案件について（資料No.3）【説明者：松江事務局次長】

① 報告第2号「平成29年度南信州広域連合一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について」

② 議案第12号「監査委員の選任について」（人事案件）

・議会の同意を得て広域連合長が選任。

- ・市瀬晴康 監査委員が平成 30 年 8 月 28 日で任期満了。
 - ・選任予定者：塩澤房人氏（阿智村監査委員）
 - ・任期：平成 30 年 8 月 31 日から平成 34 年 8 月 30 日まで。
- ③ 議案第 13 号「南信州広域連合産業振興と人材育成の拠点条例の制定について」（条例案件）
- ・公の施設として指定管理で設置する。
 - ・指定管理については、11 月定例会に上程予定。
 - ・施行日：平成 31 年 1 月 1 日
- 説明内容確認、質疑なし

(4) 信州木曾看護専門学校について（資料No.4）【説明者：高田事務局長】

- ① 地域特定推薦入試対象者の選考日程について
- ・受付期間：8 月 13 日（月）から 9 月 12 日（水）まで
 - ・推薦者選考審査会：9 月 27 日（木）午後 4 時 30 分頃から
 - ・広報にて各戸（組合）へ配布。
- ② 信州木曾看護専門学校の概要について
- ・平成 26 年の開設から 5 年が経過。
 - ・第 107 回看護師国家試験（平成 30 年 2 月 18 日）：受験者 21 名中、合格率：100%（全国：91%）。
 - ・21 名中 3 名が管内出身者。進学 2 名（飯田女子短期大学）、19 名就職（下伊那 2 名）。
 - ・この学校へ入学してこの地域に戻ってきてもらうためにも、学校との繋がりを大切にしたい。
- 説明内容確認、質疑なし

(5) いいむす 2 1 登録判定について（資料No.5）【説明者：松江事務局次長】

- 初級（更新）「松島産業株式会社第二工場」
- 異議なし、承認

(6) 後援依頼について（資料No.6）【説明者：加藤庶務係長】

- | | | |
|------------------------------------|--------------|---------------|
| ① 「第 4 回 三遠南信 食の祭典」 | 10 月 21 日（日） | 10 時から 16 時まで |
| ② 「第 25 回 三遠南信ふるさと歌舞伎交流下條大会」 | 12 月 16 日（日） | 10 時開演予定 |
| ③ 「第 3 回 みなみ信州駅・ロードレース大会」 | 12 月 2 日（日） | 9 時開始 |
| ④ 「第 19 回 EMC シンポジウム I I D A 2018」 | 10 月 25 日（木） | ～26 日（金） |
- 異議なし、承認

(7) 飯田広域消防本部から（資料No.7）【説明者：大藏次長兼総務課長】

- ① 高規格自動車及びドローン受納式典について
- ・9 月 8 日（土）飯田広域消防本部
- ② ドローンについて
- ・安全に留意し活用して参りたい。
- ③ 熱中症予防強化月間の取組みについて
- ・7 月 1 日（日）から 8 月 31 日（金）まで（2 カ月間）
- ④ 熱中症疑いによる救急搬送の状況
- ・144 人（昨年同日比+69 人）
- ⑤ 救急 i Pad の運用について
- ・運用開始：7 月 23 日（月）計 10 台
 - ・救急ボイストラの活用（外国人傷病者への状況聴取）
 - ・画像通信を用いた医師への報告（飯田市立病院⇄救急隊員）
- 説明内容確認、質疑なし

(8) コンベンション施設及び屋内体育施設に関する検討について（資料No.8）【説明者：高田事務局長】

① 7月の広域連合会議で出された意見の整理

② 今後の検討の進め方について（資料No.8-2）【説明者：副管理者】

- ・当地域の「強み」を活かして人を呼び込むという視点と併せて当地域の「課題」を解決するという視点を持ち、施設の必要性を考えてみてはどうか。
- ・例1) 小規模校における部活困難の状況から、市町村・校区を超えたクラブチームを結成し、その活動拠点としたらどうか(中高生がスポーツを学ぶ拠点・リニアの利便性を活かし、都市圏からプロの指導者も来てもらえる場・昼間はシニア層が活用し健康長寿の拠点として)。
- ・例2) 伝統芸能・民俗芸能の継承危機の状況から、地域内外の人々が伝統芸能・民俗芸能を鑑賞し、学ぶことのできる場にしたらどうか(獅子舞や地歌舞伎等が定期的に公演出来る場・地域内の人だけではなく、リニアを活用して都市圏の人々も鑑賞・体験を通じて担い手、支え手が育つきっかけに)。
- ・例3) 人口減少、高齢化に伴う地域コミュニティの弱体化の現状から、当地域の「公民館活動」を学びに訪れている大学・研究室らと協働し問題解決を図る場、フィールドスタディの拠点としたらどうか(大学生らが当地域の活動を学ぶと同時に、当地域の人間と共に学び、地域課題の解決を図る場・海外からも「kouminkan」を学ぶ場として)。
- ・例4) 本物の芸術文化・プロスポーツに接する機会が少ない状況から、単に住民の「観る」機会を増やすということではなく子供・青少年がホンモノに触れられる場、一同に会して切磋琢磨し、プロのアドバイスを受けられる学びの拠点としたらどうか(吹奏楽や演劇、人形劇など・バレエ教室やダンススクール等)。

③ アプローチシートの説明

- 飯田市
- ・問題意識として、リニアが通るといふ他の地域にはないチャンスを最大限に活かすという視点とともに、リニアが当地域を通ることでの全国や世界にとっての価値を創出する視点を持たなければ、単なる通過駅となってしまう。
 - ・目指すべき地域の将来像として、「ナレッジ・リンク」の一翼を担い、地域との共創により世界の課題に取り組む、そのような価値を発信する都市になりたい。
 - ・施設のコンセプトを考えるうえでの当地域の強みとして、公民館活動で培った自主自立の精神をベースとした、りんご並木に象徴されるまちづくり、人形劇フェスタをはじめとする文化活動、体験型のグリーンツーリズムといった住民が主体となった取り組みが全国的に評価されてきた。また、環境モデル都市として環境問題に取り組んでいる、これも一つの強み。
 - ・文化面では、人形浄瑠璃や獅子舞といった独自の文化がある。こういったものも世界に発信できる。
 - ・公民館活動などを学びに国内外から多くの人々が訪れており、近年では大学や研究機関との連携が活発になりつつある。さらには「世界経済フォーラム」との関係が作られつつあり、様々なネットワークを活かしながら国内外の研究者と地域とが共同していく「滞在体験型研究フィールド」が当地域の一つの強みと捉えた。
 - ・地域の特性を活かしたコンベンションの在り方については、「地域住民との交流と体験を通して能動的に学ぶ」という新しいタイプのコンベンションを提案する。
 - ・フィールドスタディの拠点としての機能や文化、伝統芸能や人形劇を通じた国際的な交流の拠点、環境問題を始めとしていろいろな世界的な課題解決に向け国内外の研究者等と課題解決に向かっていくという拠点。
 - ・豊かな食文化やツーリズムを愉しめる「山岳・里山リゾート」機能を担うイメージ。
 - ・他地域・機関との連携・棲み分けの中では、「産業振興と人材育成の拠点」の機能や「飯田文化会館の建替」も踏まえ、施設をある程度複合化して考える必要がある。

- 高森町
- ・目指すべき地域の将来像として、リニアが通ることを考えると「長野県の南の玄関口」という位置づけを持ち、そこに俯瞰されるようなものを検討している。
 - ・大都市の小さなコピーになるのではなく、都市機能の一部を高いレベルで受け持つ地域として、子育て、文化、学術、余暇などを目指すべき。
 - ・当地域の強みとしては、景観や環境。ふるさと納税をやっていてすごいと感ずるのが、長野県・南信州のネームバリュー。
 - ・コンベンションの在り方については、地域住民、こども、若者などをターゲットとしながら、身近に芸術、文化、会議を体験できる施設で、それを維持するために地域外からも利用者呼び込む。
 - ・地域を訪れる方と地域の次代を担う世代（子ども・若者）との交流が持てる施設を国際的な人のつながりや視点を持ち、地域人材を育成できる施設。
 - ・コンセプト実現のための戦略として、ターゲットは若者。
 - ・他地域との連携棲み分けについては、高森町としてはコンベンション機能を有したコンベンション・アリーナというところを棲み分けとして持ってきてはどうかと検討した。
 - ・施設に求められる機能としては、プロスポーツやコンサート、演劇、展示会などや観光、地域のPRなども可能な複合施設ということと、リニア駅からのアクセスが良い場所。屋外のイベント等を含めて駐車場の確保。イベントで人を帰さないための宿泊施設。外観・周辺整備や関係企業の誘致も必要ではないか。
 - ・山梨県駅周辺整備は県が中心となって行われるとのことから、是非、長野県としても企画立案の段階からお金の話も含め、会議の内容に加わって欲しい。
 - ・公民館の延長のような施設をつくるのであれば、私はいらないと思う。それは各市町村が考えるべきであり、南信州全体をターゲットにして考えていくのであれば、中途半端なものをつくるのではなく、それ相応のいろいろな活動が出来る場を考えると、地元の皆様が利用できる場としてはあまり現実的ではなく、この施設の採算をとっていこうとするとそれなりの料金をとってやっていける施設が必要ではないか。
 - ・民間企業を早く探すべき。
 - ・地方創生として、福祉、文化、産業、教育の総合力がある所には人が集まる。商業施設等を含めたある程度の総合体がこの地域の中にあるかどうかを考えた時に、松本・長野には劣る。総合力を高めることが大事。
- 阿南町
- ・副管理者の説明があったが、そのような視点でものを考えていく必要性を感じた。
 - ・話し合いがコンベンションや建物にすぐいってしまい、これだけ広域的で地理地形の違う14市町村のなかで、全てを賄えるような良いものは出てこないのではないか。
 - ・広域連合全体として考えるならば、一極集中もやむを得ない。全てが良くなるというのはとても考えられない。
 - ・全体に波及する考え方として、「自然」というものが都市部からすれば魅力的に映る。食をはじめ、そういったものが活かせるものが必要ではないか。
 - ・少子高齢化、二極化も進んでいる中、あまり大規模的なものを考えてもまわしが効かない。
 - ・積極的、前向きに取り組むことは大切だが、広域全体として慎重さも必要。
 - ・建物ありきではないのではないか。
- 阿智村
- ・阿智村にも夏休みを利用して、多くの大学生が来てくれた。この地域にはそういった土壌がある。ラグビーといえば「菅平」といった形で、南信州といえば「社会教育を学べるなど」といったことを売りにして、この地域をアピールしてはどうか。
 - ・南信州は伝統芸能など、人を呼べる素晴らしい地域なので、そうしたことをヒントにコンベンションやアリーナを考えてはどうか。
 - ・全国の人たちが、特に高齢者が勉強したり、南信州の自然を活かした本物の芸能、スポ

ーツを体験できるコンベンションホールをコンセプトにしていけばどうか。

- ・コンセプト実現のための戦略として、リニア沿線の地域の甲府・中津川と連携し、コンサートツアーや試合日程が組めるような工夫が必要。
- ・甲府・中津川との棲み分けもお互いに研究し共倒れとしないようにする必要がある。
- ・民間も併せて考えていくべき。
- ・私としては、コンベンション・アリーナどちらもあったほうが良いと思う。

下條村

- ・この地域は、「観る」または「支える」という部分が少ない。
- ・野球中心からサッカーが各地域に出来てきて、「支える」部分が育ってきている。
- ・コンベンションで芸能文化をやり、「支える」ということも大事。
- ・これからの時代の中で、若い世代がどうやって生きがいを見出し、新たなものを創出して発信していけるかを考えていかなければならない。
- ・棲み分けは必要と感じている。大きな施設は大都会で出来る話で、飯田市の人形劇のような分野に光を当てていくことが必要。
- ・コンベンションは飯田市で、アリーナは広域連合で進めていけばどうか。
- ・飯田下伊那だけで考えていていいのかという思いもある。上伊那や木曾も含めて飯田市が中心となり、まとめていくことが早急に求められるのではないかと。

喬木村

- ・リニアが通る時には東京と名古屋の間となり、飯田はとても魅力的な立ち位置になる反面、端から端まで1時間ということもあり、あまりメリットということでもない。
- ・大都市圏からわずかな時間で本当の田舎を満喫できる地域であることがこの地域の特徴。
- ・この地域に出来ることを考えた時に、この伊那谷の魅力を外に見せること、この地域に暮らす子供たちや大人が本物に触れることができるもの、そのことを考えるとアリーナがとても面白い施設になるのではないかと。
- ・地域内の皆様が十分に活用することも大切だが、外に発信できるだけの魅力ある施設でなければわざわざ広域連合でつくる必要はない。つくるのであれば他にはないものをつくるべき。
- ・この地域にはこれが必要なんだという定義付けを住民の皆様にしなければならぬ時期。

④ 意見交換

豊丘村

- ・気楽に遊べて楽しいということが一番人を集められる。ただ、それだけでは飽きられてしまう。アミューズメントと地域の文化や歴史、自然を活かしたアクティビティ、そういったものを混ぜ合わせるなかで、どういう形が良いのかを考えていくことが出来れば良いと思う。
- ・そろそろ民間に叩き台を作ってもらい、具現化していく時期ではないかと。

根羽村

- ・リニアの駅が出来ることで人々の移動が非常に短時間になることが最大のメリットであり、人を呼び込むことと併せて地域に住む人たちがそれをどう活かして、幸せに生きていくかということは融合すべきと考える。
- ・専門的な大施設という意見もあっても良いと思う。専門家の意見も聞きながら検討を進めていけば、コンベンションなのか体育施設なのか、合わせたものなのかということも出てくるのではないかと。

売木村

- ・アリーナが広域連合でコンベンションホールは飯田市でという話も出ていたが、その方向をまずははっきりとさせていくのが良いのではないかと。
- ・飯田市においても飯田文化会館の検討をされていると思うが、具体的にどのような検

討をされているかお聞かせ願いたい。

- 飯田市
- ・広域連合の考え方も踏まえ、並行して考えている。
 - ・ここでの議論は飯田市へも伝わっていく。
 - ・広域連合でコンベンション施設をという方向性がある以上、飯田市でコンベンション施設をというような、だぶった話になるのは良くない。
- 豊丘村
- ・土俵が一つになっていない気がする。その辺を議論する必要がある。
 - ・連合長が言われたように、広域連合全体としての新たな形のコンベンションやアリーナの在り方を考えていくならこの場ということだがそこをまとめていただきたい。
- 連合長
- ・基本は広域連合として考えていく。
- 松川町
- ・現状の課題はある程度出たかと思う。課題をどう捉えてどういう方向に向けていくのかということこれからまとめていく段階に入りつつある。
 - ・コンベンションがいるのか、アリーナがいるのか、両方いるのか、それとも複合的な施設にするのか、その辺の議論を煮詰めていく必要がある。
 - ・専門家の意見も交えながらという考えも大切。
 - ・誰のためにやるのか、リニア駅が出来て多くの人を呼んでくるのか、地域の皆様をターゲットにしていくのか。
 - ・地域の皆様が不便をしていたから、地域の皆様のためにこうした施設をつくるというだけでは面白みや希望もない気がする。
- 副管理者
- ・どちらかという豊丘村長が言われたように見たこともない施設になっているのではないか。公民館でもないし体育館でもないし、コンベンションやアリーナというコンセプトにうまく収まらない施設。例えばクラブスポーツの拠点や芸能発表等を一緒につくるとすれば。
 - ・専門家の意見も聞きながら磨き上げることは必要。
- 天龍村
- ・何回かこの議論に参加させていただいて、一番感じるのは前へ進んでいかないということ。進め方を順序立ててわかりやすく整備して進めていただくと、もう少し議論の進捗もみえるのではないか。
 - ・7月にアプローチシートを提出して、それぞれの町村で意見発表させていただいた。そこでリニアの近くを通る町村と遠い町村との温度差を感じた。
 - ・町村の規模によって将来的、財政的な負担の不安から、積極的な意見が出ない。
 - ・広域連合としてこういったことをやるとなれば、地元の町村にもきちんとした説明をしなければならぬ。地域住民の声を反映するような形をどこかでとっていただきたい。
- 泰阜村
- ・ランニングコストを考えた時に、負の遺産になることが想定される。元気のある民間活力を含めて次のステップアップに向け話を進めていってはどうか。
- 大鹿村
- ・私の考えではこうした施設がどこに出来るかは非常に興味がある。飯田下伊那は広く、自分の町村にということは誰しもが考えるがそうもいかないとなれば、少し冷めた目で見ってしまうのが実際の話。
 - ・中心市の考え方は全面に出していただき、その中で14市町村が研究を進めていくのが必要ではないか。
 - ・地元の皆様が興味を持って使えるもの、あまりスケールの大きくないものといった意見が出ているので、その辺を参考に飯田市の考え方を出していくべきではないか。

副連合長 ・この辺でそろそろ専門家の意見も交えてまとめを出した方が良いと思う。出来た時の運営の方法、財源等の検討にも入っていかなければならない。専門家の意見を取り入れて一步前進を。

事務局長 ・はっきりと申し上げて4月、5月にこのように進めていこうということが甘かったと感じる。ご意見にもあったが、そろそろ外からの意見も聞いて前に進んでいかないといけない時期。
・外に向かってご意見がいただけるよう整理をしていきたい。
・これまでいろいろな有識者のご意見をいただいてきた。この地域をよく知っている有識者の方に広域連合会議として考えてきたことを少しぶつけてみたい。
・住民の皆様の意見も聞かなければならない。
・議会へも検討状況等を報告していきたい。
・出来れば12月、1月あたりに住民へ向けて、意見交換会・説明会が実施できればと思う。
・場所も含めて年度末くらいには検討委員会も立ち上げ進めていきたい。

高森町 ・一番腑に落ちないのが、このまま進んでいくということが14市町村として了解いただけているのか。途中で頓挫してしまうことになれば議論に有した労力や時間がもったいない。

連合長 ・ぼやっとした中では難しい。専門家を交えて具体的なものにしていく必要がある。

下條村 ・コンベンションやアリーナということは、今まで議論されてきたことと捉えている。つくるということは共通認識としてあるが、施設の形はというと曖昧な状況。

豊丘村 ・コンベンションやアリーナを検討し、将来を検討することはこの地域のプラスとなる。是非とも動き出してはいるので、飯田市の強いリードで、専門家や民間の情報を得ながら進めて欲しい。

連合長 ・参考として申し上げるが基本構想の時もこのコンベンションやアリーナは事務局レベルでも本当にやるのかが検討されてきた。リニア時代を見据えた時にこうした議論の検討は必要だろうと、その場に居合わせた人たちの中では合意を得ているという認識。

高森町 ・いろいろな形でいろいろな業者からの提案が届いている。そういった業者にもきていただき発表の機会をいただければと思うが。

事務局長 ・是非、そうした機会を作っていきたい。

(9) 南信州地域振興局から

① 「県知事選挙」について

・投票率（管内8%減／前回比）

② 「JR飯田線各駅停車の旅」について

③ 「保護者向けセミナー（8/4）・南信州就活準備セミナー（8/7）」について

→ 説明内容確認、質疑なし

(10) 飯田建設事務所から

→ 報告事項なし

(11) 飯田保健福祉事務所から

「ACEフォーラム in 南信州」について

・ 9月7日（金）14：00～16：30 南信州・飯田産業センター

→ 説明内容確認、質疑なし

5 今後の日程について

8月31日（金） 南信州広域連合議会第2回臨時会 11：00～ 広域消防本部

9月8日（土） 救急自動車寄附受納式 8：15～ 広域消防本部

6 閉会…14：55